

主席
研究員

清水秀幸

7

実例「長野市の検証」
(1)規模と歴史

私達の暮らす長野市（以下、本市）は、善光寺平の中央部に位置し、東西36・5km、南北41・7km、総面積834・85km²の面積と総人口38万人余りを有



する県内唯一の中核都市である。

本市は国宝善光寺の門前町として、平安の時代から宗派を超えた霊地霊場として全国から信者を迎え、1611年（慶長16年）以降北国街道の宿駅（善光寺宿）が設けられたことで、宿場としての街並みも形成し、日本海と太平洋を結ぶ交易の要所としての役割も果たしながら、長い歴史を刻んで近代を迎えている。

そして、1966年（昭和41年）には、松

稿 寄

人口減少社会と 地方都市の活力再生

11

代城を中心に城下町を形成する松代町を合併し、全国的にも稀有な門前・城下・宿場町という複合的都市構造を併せ持つ県都として今日に至っている。

また、1888年（明治21年）の信越線の開通にはじまり、近年には冬季オリンピック・パラリンピックの開催決定をうけて、新幹線をはじめとする高速交通網の急速な整備促進により、首都圏へのアクセスが急激に向上し、さらに来春には北

陸新幹線の開通を追い

風に、北陸と首都圏の結節の要衝、観光・物流の交流拠点都市としてさらなる躍進が期待



新田町交差点から善光寺に至る中心市街地

されている。

7 (2)人口減少

しかしながら一方では、高速交通網の発展を要因とする「社会減」と合計特殊出生率の低下による「自然減」により、本市の人口は2000年（平成12年）をピークに減少に転じ、徐々に縮小の方向に向かっている。（続く）

清水 秀幸氏（しみず・ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒、同年守谷商会入社、2006年6月取締役就任。各支店長、営業本部長を経て、退任。13年7月にさくら都市総合研究所を設立し、現在社長。